



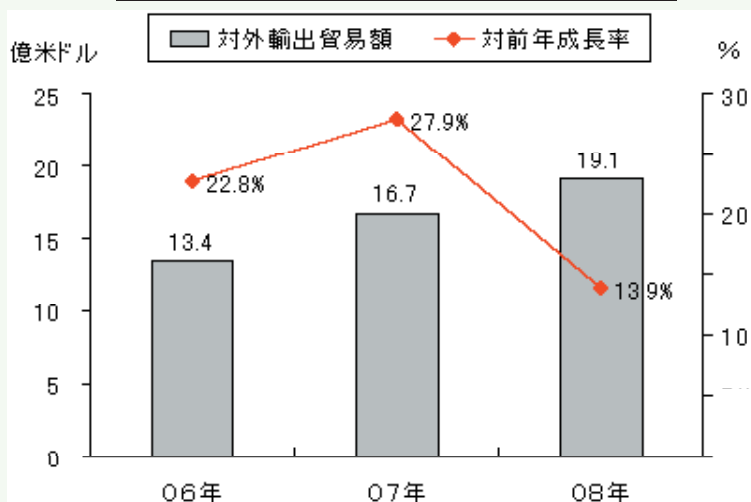
(73) 新義烏—新たなビジネスモデルへの挑戦

野村综研(上海)咨询有限公司

上海から約400^{キロ}の距離にある浙江省中部の義烏市は、世界最大の卸売市場として知られている。日用雑貨から建築材料までそろっているため、国内だけでなく外国からも商談者や視察で多くの人を迎えている。近年は義烏までの交通インフラが整備され、高速道路に限らず、時速200^{キロ}の高速列車「動車組」から飛行機までアクセス手段も増えてきている。

最近5年ぶりに義烏まで視察に行ってきた。前回と比べて外国ビジネスマンや旅行者が著しく減っているように思った。特に義烏の商品の最大輸出先である中東・アラビア地域からの来訪者の姿が減少しているようだった。昨年10月以来の世界的な金融恐慌が義烏にまで影響を及ぼしているのを今回の視察によって肌で感じた。

義烏の輸出額と成長率(2006年-08年)



◇「鳥の毛」から始まった巨大市場

世界有数の巨大卸売市場である現在の義烏の前身は、家畜と物品を交換するフリーマーケットである。改革開放後、限られた現金の代わりに農作物の肥料となる鳥の毛や家畜、義烏名産の黒砂糖を持ち、富と物を求める人々がフリーマーケットで物々交換を始めた。最初は近隣の福建省や江西省と取引をしていたが、その後徐々に全国から人が集まるようになった。

その後の「全民皆商(民が創業する波のこと)」の流れから、いつの間にか義烏で小物市場ができ、このマーケットこそが今の卸売市場の発祥と言われている。世界貿易機関(WTO)加盟後は、毎年1回開催していた「中国小物商品博覧会」が「世界小物商品博覧会」として規模を拡大し、世界の経営者が注目し、集まるマーケットとなったのである。

◇金融危機が駆り立てる新たな競争

金融危機がもたらした経済不振は義烏市場にも大きな衝撃を与えている。海外市場の縮小によって対外輸出型の生産企業が相次ぎ倒産し、かつて商談・調達に外国から足を運んで来た人々の姿が明らかに減少し始めている。

2008年の輸出貿易額は19億米ドルであり、前年の17億米ドルより上昇しているものの、成長率を見ると07年度の27.8%から13.9%と鈍化している。義烏マーケットはまさに今、最大の危機に直面していると言えよう。

市場を巡ってみると、ブランド商品もあるものの、無名の商品群が大半を占めるという印象だ。無論、中には目に留まる光る商品も当然存在するであろうが、限られた時間の中で市場の隅々まで細かく見ることは不可能に近く、まさに宝探しと言っても過言ではない。海外から直接市場に足を運んでくれる人々が少なくなる中で、今後は自社製品をいかにアピールするかが重要になってくる。義烏市場での競争で生き残る企業は、コスト競争力だけでなく、ブランド力、商品力、販売力がある企業であろう。